

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	施術概論 2	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	教科書（一般臨床医学 第2版 -社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	富田 泰彦		実務経験の有無・職種	有・医師	
学習目的					
柔道整復師は医療資格であり、資格取得後に患者の患部へ施術をすることを業務とするため人体の構造と機能を熟知する必要がある。しかしながら医療現場では柔道整復師の業務範囲外の疾病と思われる患者に遭遇することがあり、速やかに医師の診断を仰ぐ必要が出てくる。西洋医学は、応用医学の一部門として、科学技術の恩恵を受けて発展してきている。病理学的背景に裏づけられた疾患分類は疾病の把握が容易であり、理解しやすい。柔道整復術は、西洋医学とは診断方法や治療法などで多くの点で異なっているため、国民の健康向上を担う医療人として内科学的な一般臨床医学の知識を学ぶことで医師との連携を密にすることのできる人材の育成が目的となる。					
到達目標					
医療機関では、患者がもっている精神的・肉体的異常を、まず正確に把握しなければならず、こうした医療行為が診察であり、それにより患者が健康に復帰するために行う処置、すなわち治療を施すための根拠が得られることになる。診察では、患者の訴える自覚症状（愁訴）を聴取することから始まり、患者の身体に現れている異常な他覚的所見（徴候）を眼でみたり、手で触ったりして観察する。ついで、診察を通じて患者の異常状態なり病名を判断する。この行為を診断という。診察から診断について学ぶことで柔道整復師本来の業務範囲に活用できることが目標である。					
教育方法等					
授業概要	教科書を中心として授業を進める。医療従事者は症状・診断法・注意すべき顔貌や愁訴など、いくつかの疾患を念頭に置きながら、それらのなかからその患者に最も妥当と考えられる疾患名を判定できる能力を必要とされる。柔道整復師として臨床現場においても求められる鑑別診断の知識を、内科学を学ぶことで育成する。				
	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	主要な疾患①		かぜ症候群・肺炎・肺結核症・気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）について理解する		
2回	主要な疾患②		肺血栓塞栓症・肺腫瘍・胸郭異常・気胸などについて理解する		
3回	主要な疾患③		心臓の疾患（ファロー四徴症・狭心症・心筋梗塞・不整脈など）について理解する		
4回	主要な疾患④		高血圧・大動脈瘤・レイノー症候群などについて理解する		
5回	主要な疾患⑤		消化器疾患（総論・食道癌・消化性潰瘍・胃癌など）について理解する		
6回	主要な疾患⑥		消化器疾患（虫垂炎・腸閉塞・クローン病・大腸癌など）について理解する		
7回	主要な疾患⑦		黄疸・腹水・急性ウイルス肝炎・肝硬変・肝癌・胆石・胆癌・膵癌などについて理解する		
8回	前期7週までの振り返りと確認演習		1回～7回の知識が蓄積されているか確認する		
9回	主要な疾患⑧		代謝・栄養疾患（糖尿病・脂質異常症・痛風・ビタミン欠乏症など）について理解する		
10回	主要な疾患⑨		代謝・栄養疾患（ヘモクロマトーシス・骨粗鬆症・骨軟化症など）について理解する		
11回	主要な疾患⑩		内分泌疾患（総論と間脳・下垂体機能障害）について理解する		
12回	主要な疾患⑪		内分泌疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺疾患）について理解する		
13回	主要な疾患⑫		内分泌疾患（クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン血症など）について理解する		
14回	前期13週までの振り返りと確認演習		9回～13回の知識が蓄積されているか確認する		
15回	まとめ		半期で取得した知識の確認		